

アプリケーションライフサイクル管理

Interstage

Application Development Cycle Manager

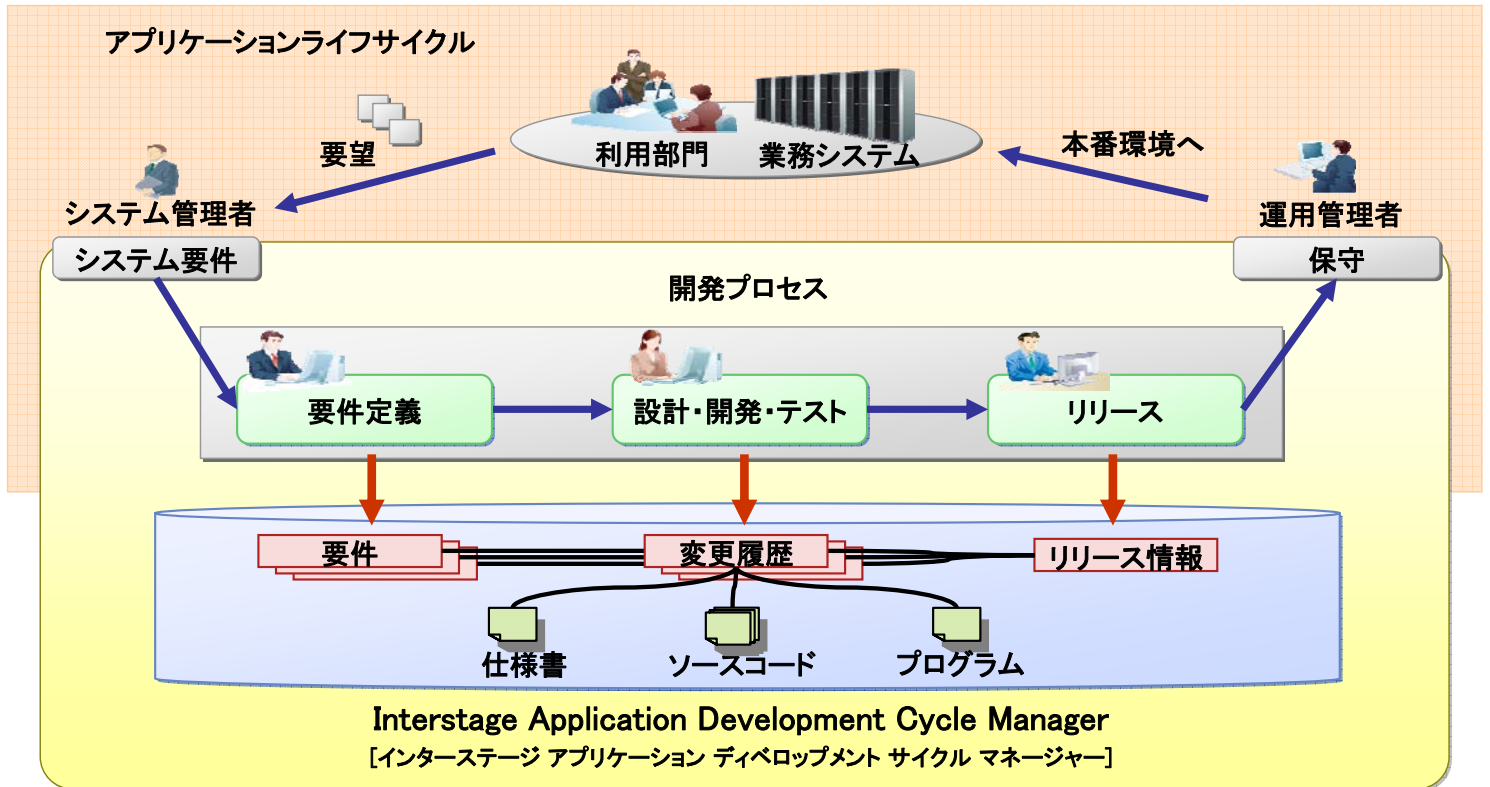
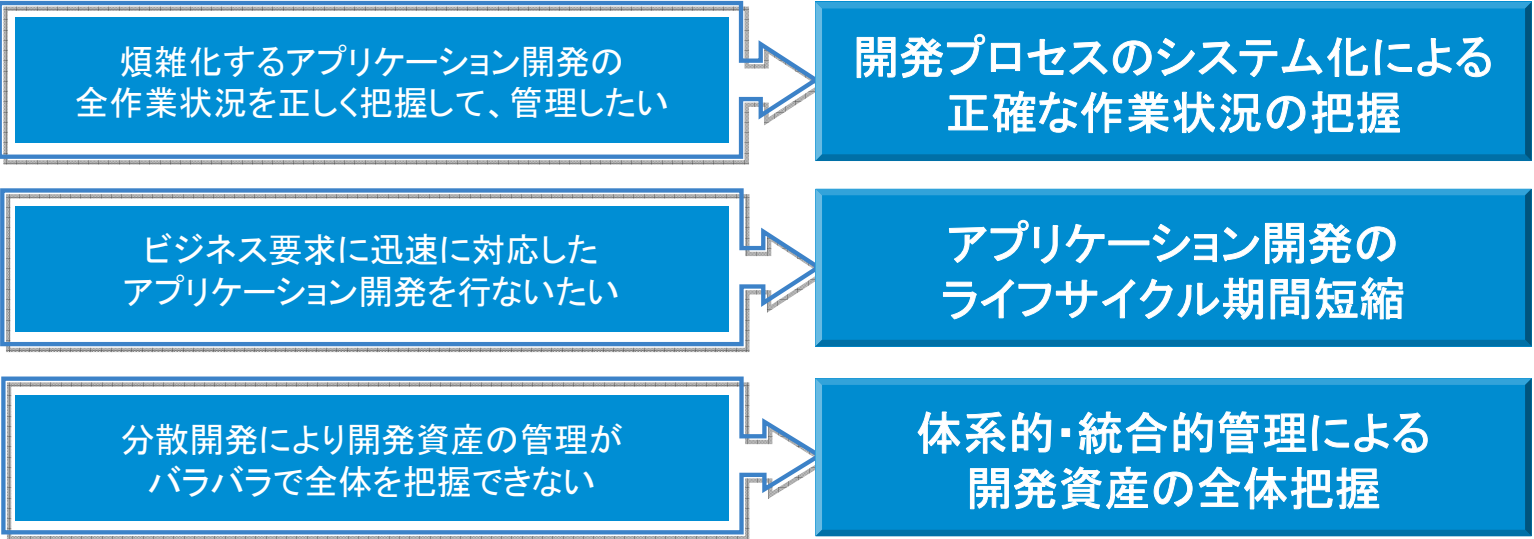
アプリケーション開発プロセスと開発資産の統合管理

システムの大規模化と開発スタイルの多種・多様化が進む中、要件定義、プログラム開発(設計・開発・テスト)、リリース、保守といったアプリケーションライフサイクルの管理が煩雑化しており、正確な作業状況の把握や適切な開発資産の管理にもとづいたリリースが求められています。

Interstage Application Development Cycle Managerは、業務アプリケーション、パッケージソフトウェア、組み込みソフトウェアを始めとするあらゆるアプリケーション開発の現場に対し、開発プロセスと開発資産を関連付けて統合的な管理を行う機能を提供することにより、最適化されたアプリケーションライフサイクルの管理を実現します。

こんな課題ありませんか？

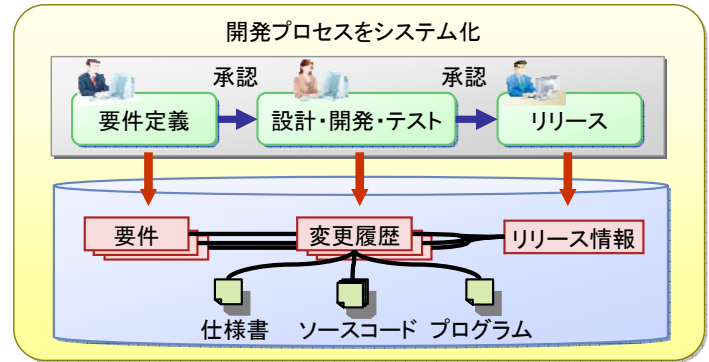
Interstage Application Development Cycle Managerで解決！



開発プロセスのシステム化による正確な作業状況の把握

煩雑化するアプリケーション開発の現場において、表計算ソフトや文書、メールを活用した管理では、最新かつ正確な作業状況の把握や、チーム間での情報共有が難しくなっております。

本製品の導入により、要件定義、プログラム開発(設計・開発・テスト)、リリースといった開発プロセスをシステム化し、各開発プロセスに関連する開発資産をサーバで統一的に管理することで、実作業にもとづいた最新かつ正確な作業状況をチーム間で共有することが可能となります。

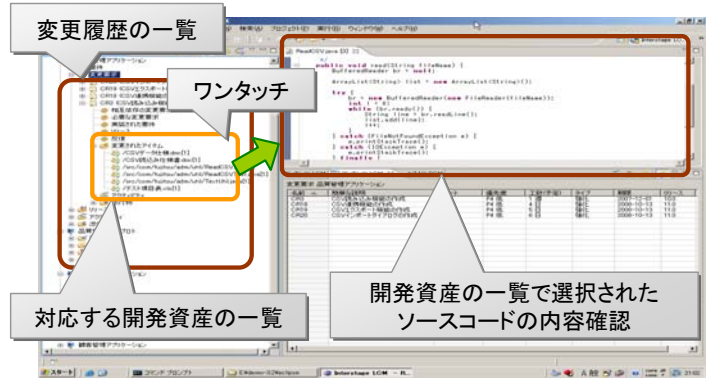


アプリケーション開発のライフサイクル期間短縮

変更履歴と開発資産を別々のツールで管理するスタイルでは、変更履歴に対応したドキュメント・ソースコードを直ぐに把握することが難しくなり、例えば二次開発時におけるプログラムの設計・実装の着手に時間が掛かってしまいます。

本製品を導入することで、変更履歴と開発資産を関連付けた管理が可能となり、変更履歴に対応した開発資産の把握が瞬時に可能となります。

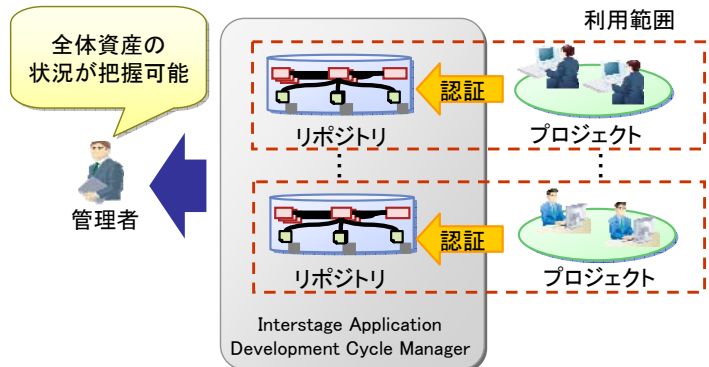
これにより各作業工程の期間が短縮され、その結果、アプリケーション開発のライフサイクル期間の短縮が見込まれます。



体系的・統合的管理による開発資産の全体把握

開発資産は、サーバ上に定義されたリポジトリと呼ばれる単位で個別に管理されます。リポジトリに対しては、認証によるアクセス制御を行うことが可能です。

複数プロジェクトによる分散開発において、1つのサーバ上でプロジェクト単位にリポジトリを割当ててすることで、体系的かつ統合的な開発資産の管理が可能となり、全体資産の状況が把握できます。



動作環境

製品名	サーバ動作OS	クライアント動作OS
Interstage Application Development Cycle Manager	Windows Server 2008 Windows Server 2003	Windows Vista、Windows XP Windows Server 2008 Windows Server 2003

必須ソフトウェア

ソフトウェア名	概要
Interstage Studio推奨*	統合ソフトウェア開発環境

※Eclipse 3.2、3.3およびそれらに準拠した統合ソフトウェア開発環境も利用可能

*Microsoft、Windows、Windows Serverは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
*Interstageは富士通株式会社の登録商標です。
*その他、使用している会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。
*本資料に記載されているシステム名、製品名などには、必ずしも商標表示(TM-®)を付記していません。



インターネットで製品情報がご覧になれます。

<http://interstage.fujitsu.com/jp/apdevcyclemgr/>

製品・サービスについてのお問い合わせは

富士通コンタクトライン 0120-933-200

受付時間 9:00~17:30(土・日・祝日・年末年始を除く)

富士通株式会社 〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター